

# 新産業廃棄物最終処分場の施設について（まとめ）

## 1 埋立地（オープン型）

搬入された廃棄物を埋立てる場所

- 浸出水の発生を抑制するため、埋立地を2区画に分け、下流側（北側）から埋立を開始する
- 周辺環境保全のため、廃棄物を即日覆土するセル方式とする

面積：約9.8ha 埋立容量：約244万 $m^3$   
埋立計画量：約10万 $m^3$ /年  
埋立期間：20～23年  
埋立地構造：準好気性埋立構造

## 2 貯留構造物

廃棄物層の流出や崩壊を防ぎ、埋立てられた廃棄物を安全に貯留させるために設置  
盛土構造によるアースダムを採用

## ◇ 受入対象廃棄物

〔産業廃棄物〕

燃え殻、汚泥（無機性のものに限る）、ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず（廃石膏ボードを含む）、鋳さい、がれき類、ばいじん

〔一般廃棄物〕

地方公共団体の焼却施設から出た焼却灰等、災害廃棄物

## ◇ 受入基準

法令より厳しい基準を採用

## ◇ 受入体制

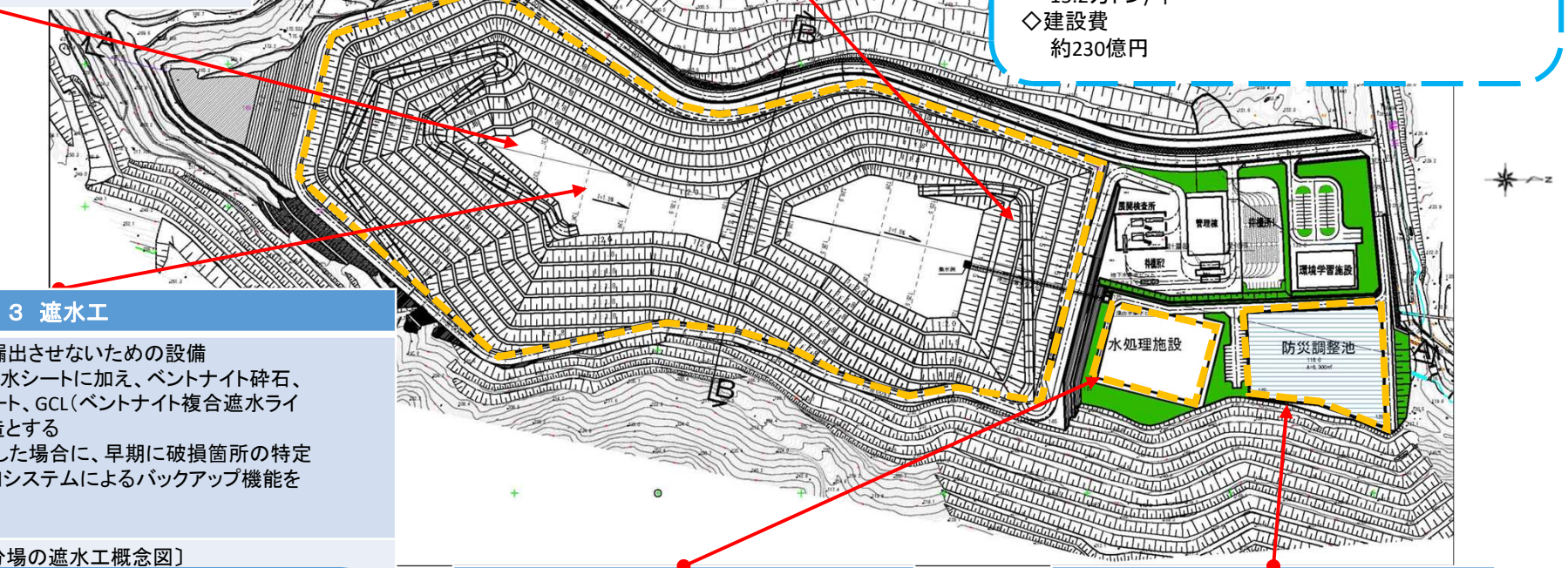
機器分析の導入や展開検査場の設置など新たな取組を実施

## ◇ 受入計画量

15.2万トン/年

## ◇ 建設費

約230億円



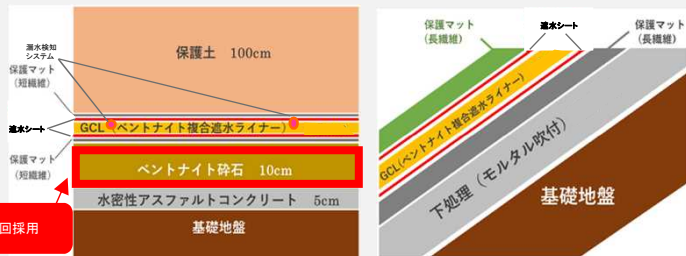
## 3 遮水工

埋立地内の浸出水を外部へ漏出させないための設備

- 基準省令に基づく二重の遮水シートに加え、ベントナイト砕石、水密性アスファルトコンクリート、GCL（ベントナイト複合遮水ライナー）による多重の遮水構造とする
- 万が一、遮水シートが破損した場合に、早期に破損箇所の特定・修復を行うための漏水検知システムによるバックアップ機能を有する構造とする

〔本処分場の遮水工概念図〕

【表面遮水工（埋立地内）】



## 4 浸出水処理施設

埋立地内から発生する浸出水を滞りなく貯留及び浄化するための施設  
（浄化処理後は下水道へ放流）

処理能力：400 $m^3$ /日  
調整槽容量：30,300 $m^3$ 程度

## 5 防災調整池

埋立地の周辺で降った雨水の流出量の増大を抑制し、鮎川の流下能力に見合った放流量を調整するための施設

容量：31,000 $m^3$ 程度